

開催中の企画展「大久保智睦－鏡映空間－」に合わせて、担当学芸員がギャラリートークを行いました。

大久保智睦先生の画業や作品について、紹介させていただきました。



展示作品をピックアップして、解説していき
ました。

大久保先生の作品は、普段見慣れているはずの平凡な風景の中に、異質の存在が「鏡映」し、様々な図像が重なり合っている様子が印象的です。「鏡映」空間の中には、ふと心に留まった風景や動植物などが、淡い陰影を持って映り込み、鏡の中の別世界を形成するような広がりを見せています。

「連環」では、十二支の一つである馬と背景にメリーゴーランドを配置し、循環過程を経て一回りずつ成長し、未来に向かって一歩ずつ歩んでゆきたいという希望が込められているそうです。



ご参加くださった皆様ありがとうございます。
した。

ギャラリートーク 「大久保智睦－鏡映空間－」 レポート

2017.8.5

大久保智睦先生は、1978年に東京都に生まれ、2009年東京藝術大学大学院美術研究科日本画博士後期課程を修了、博士号(美術)を取得しました。院展(院友)、個展、グループ展などで作品を発表し、精力的に活動を続けている日本画家です。父親の郷里は茅野市にあるため、幼いころから諏訪地域に親しみ、諏訪での自然と東京での自然という、重層的な自然が原風景として混在していることを意識し、作品化しています。



「連環」 額装にもこだわった作品に
なっています。

「大久保智睦－鏡映空間－」は、9月24日(日)まで開催しております。8月26日(土)には、大久保先生本人が作品の解説を行う「大久保智睦先生によるギャラリートーク」も行われます。

伝統的な日本画技法を駆使しながらも、新しい表現を追求して描かれた作品をぜひご覧ください。